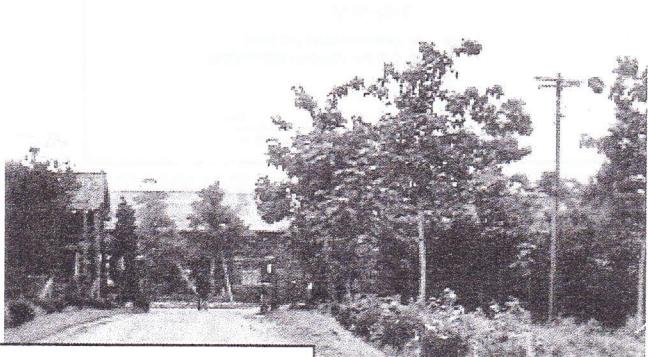


## 旧陸軍桶川飛行学校について

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場(桶川飛行学校)は、昭和10年に開校した熊谷陸軍飛行学校(現在：航空自衛隊熊谷基地)の分教場として、昭和12年6月桶川市大字川田谷に開校しました。現在の太郎右衛門橋のたもとを旧道の方(上流側)にそれたところ(橋の脇の大イチョウの木の荒川上流方向100m)に、現在も守衛所、車庫、営庭、本部兵舎、弾薬庫などが残っています。

滑走路は現在のホンダ航空の滑走路と同じところで、川島町側、ホンダ航空社屋脇の堤防から滑走路に向かう広々としたところには、格納庫と現地事務所がありました。

ほかの兵科から航空兵を希望してきた召集下士官や少年飛行兵、学徒出陣の特別操縦見習士官など、昭和20年2月の閉校までに20期余り、推定1,500—1,600名の航空兵を教育しましたが、昭和18年9月に卒業した少年飛行兵第12期生は45名中18名が、昭和19年3月卒業の特別操縦見習士官第1期生は80余名中20名近くが戦死しています。昭和20年2月以降は特攻隊の訓練基地として使用され、同年4月5日、陸軍初の練習機による特攻となる振武第79特別攻撃隊12名が知覧基地に向け出発しています。この特攻機に途中まで同乗していった元整備員の体験談も公表され、また、特攻隊出発時の写真や隊員の手記、寄せ書きなども残されています。



上：訓練風景(昭19.2頃、後方は泉福寺)

上：第79振武隊の寄書き

左上：分教場の正門(昭和16頃、自転車を止めて人が入っていく)

左：開校を報じる東京日日新聞  
(昭12.6.3)

桶川出発前の第79振武隊  
(昭20.4.5)

### 【動画】

YouTube (動画サイト)

「訓練機で特攻隊が出撃した、  
陸軍飛行学校跡を訪ねて」

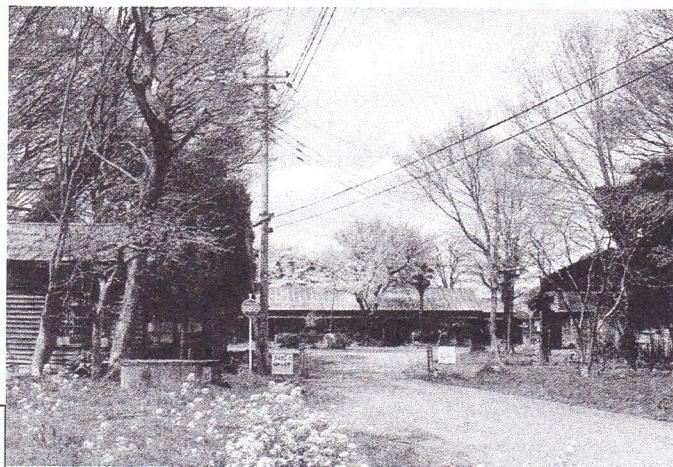
## 桶川分教場跡地の現況

終戦後、建物は地元・桶川市により床を張られ間仕切りをして、大陸からの引揚者などの住居として使用されました。敷地は国、建物は桶川市の所有でした。

平成 19 年 3 月、最後の住人が転出したため、市は国との約束で、ここを更地にして國に返還することになっていましたが、本会で行った 1 万 4 千人余の保存要望の署名に応え、22 年 1 月敷地を購入し、27 年 9 月現在、復元に向けて作業が進められています。

桶川市は建物の耐震性不足を理由に、平成 27 年 11 月末をもって現地を閉鎖したため、本会は敷地内的一般公開ができない状態になっています。

現在、日時を限定したうえで公開できないか市に要望書を提出しています。 H27.12.5



左：守衛所 中央：本部兵舎 右：車庫  
(平成 26 年 4 月 6 日撮影)



宿舎、車庫、便所、守衛所及び  
守衛所前の弾薬庫が現存。

ドキュメンタリー映画「旧陸軍桶川飛行学校桶川分教場」  
(50 分) DVD 販売中 2,000 円 (送料込) (株) ユニモト  
電話 03-3314-7021 FAX 03-3318-2723

製作協力：旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

## 現地案内図

桶川駅西口から「川越行」東武バスで 10 分「柏原」停留所下車。かしわ屋食堂の反対側を進行方向に 50m 進み右折。~~主~~、~~日のみ~~一般公開。建物内部で写真資料展示中。

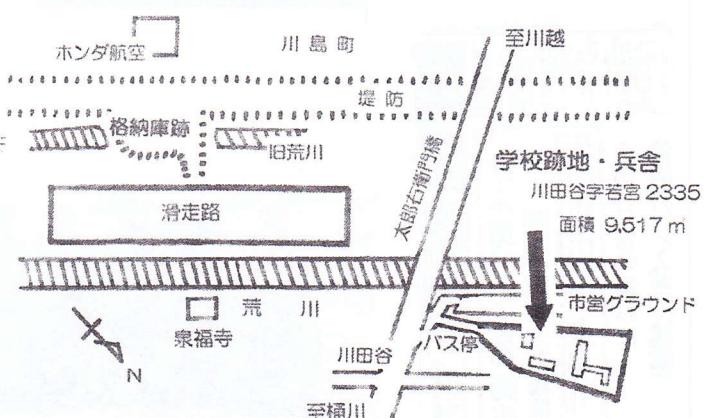
<編集・発行>

特定非営利活動法人

旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会  
事務局 〒350-0133 川島町表 403

鈴木 気付 電話 090-2554-7429

E メールは、本会のホームページから。



# 死の赤とんぼ伝える 特攻隊の整備兵

旧桶川飛行学校

やない。まさのり  
埼玉県北本市在住。15  
歳だった1941年1月から  
終戦まで、桶川飛行学校で、  
整備兵として練習機の整備に当たった。  
戦後は東京都内のエレベーター会社などに勤務した。  
土日祝日に学校跡で来館者に体験を語り続けている。

## 生きる

家族に別れを告げたようだ  
った。半日後、沖縄西方で  
敵艦に突っ込んだと知つ  
た。

一人だけ、撃ち落とされ  
たが生き残った戦友もい  
た。帰還する上盲は肩を  
いからし、怒鳴った。名譽

の戦死をしたやつがなん  
ここにいるんだ。おめお  
め生きて帰ってきてやがつ  
て、軍神、特攻の罵声しめ  
た。

「そういつ時代だったん  
ですよ。死ぬための訓練だ  
った」

文・水越直哉  
写真・木口慎子

るんですか」。学校内部を  
唯一致する存在になっていた  
柳井さんは、鈴木さんに追  
うられた。だが戸惑いは大き  
かった。生き残った自責の  
念に加え、「戦争を知らない  
い世代に話しても、説いて  
いると受け取られるだけな  
んじや」とも思った。

○五年六月に結成された  
語り継ぐ会の副会長に就任  
したもの、迷い続けた。  
それでも、戦後六十年とい  
う時間が冷靜にさせた。  
「あの戦争を検証するため  
に受け継いでもらわない  
といふ」。呼び掛けに応  
じ、○七年秋から特攻隊の  
思い出を語り始めた。

床板をきしませながら、  
赤とんぼの模型を静かに手  
に取った。

やない。まさのり  
埼玉県北本市在住。15  
歳だった1941年1月から  
終戦まで、桶川飛行学校で、  
整備兵として練習機の整備に当たった。  
戦後は東京都内のエレベーター会社などに勤務した。  
土日祝日に学校跡で来館者に体  
験を語り続けている。

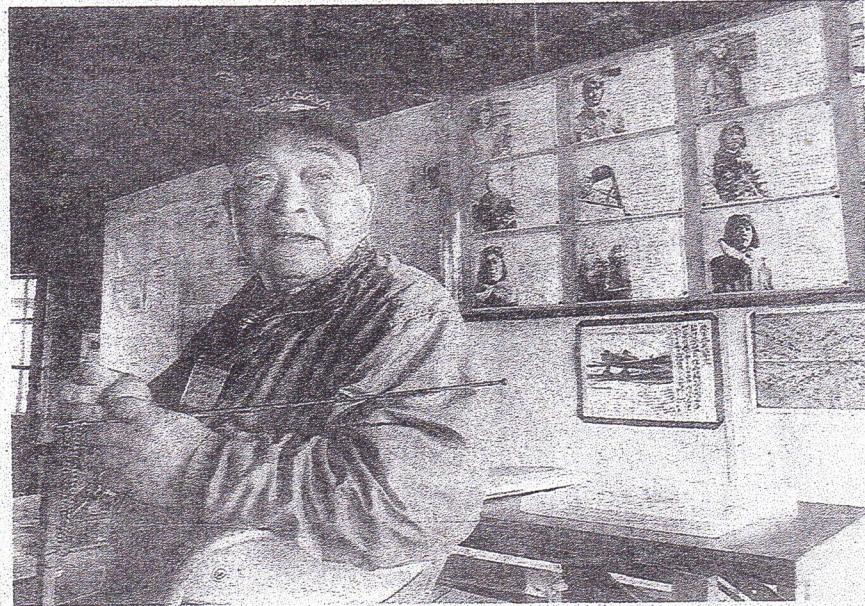
「この写真が飛び立った  
特攻兵たちですね。十一人  
は沖縄で命を落とした」  
埼玉県桶川市の荒川沿い  
に、今にも崩れそうな木造  
校舎が残る。通称旧陸軍桶  
川飛行学校と呼ばれる建物  
だ。一九三七年から終戦ま  
で、推定千六百人が飛行技  
術を学び、終戦間際、最初  
で最後の特攻隊が出撃し  
た。ここで整備兵だった柳  
井政徳さん(八四)が、なかな  
か口にできなかつた経験を  
語り始め、三年になる。  
「生き残つた負い目つて  
のかなあ。戦中のことは封  
印し、死んでいくのと思つ  
ていた」

赤とんぼ。機体をオレ  
ンジ色に塗られた桶川飛行  
学校の練習機は、そう呼ば  
れていた

「生きる」。柳井さんが  
の存在を知つた。

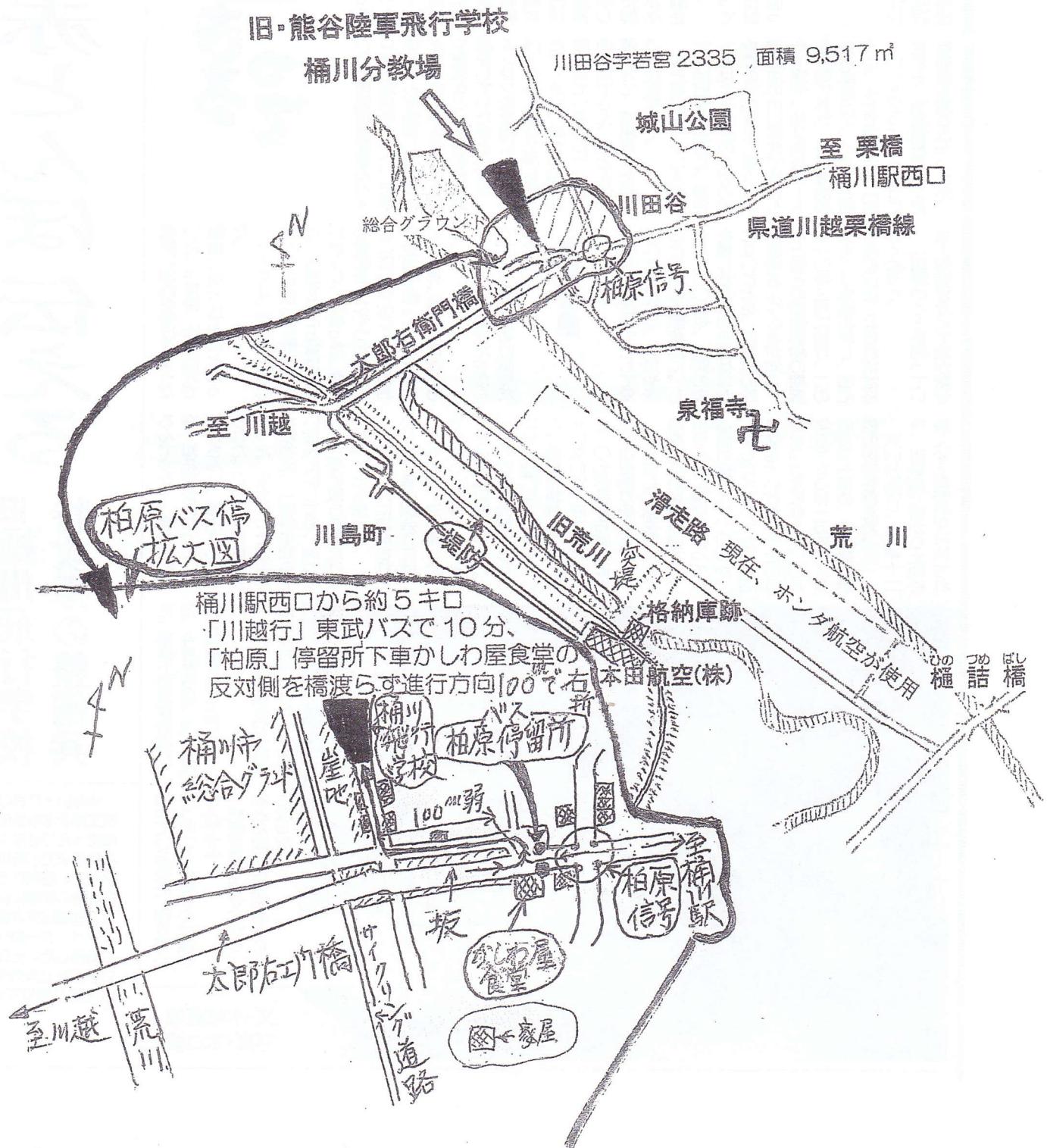
四年五月、十一人の特  
攻隊は出撃を迎えた。柳井  
さんは二十二歳の少尉の特  
攻機の後部座席に乗り、中  
継地点の山口県まで同行し  
た。途中、機は飛行ルート  
を京都に外れ、長い煙突の  
ある家を三度、ぐるっと回  
った。地上で動く手は「お  
ーい」と言つてゐるように  
見える。操縦桿を握る少尉  
は理由を語らなかつたが、  
人が話さなくて誰が話せ  
る人が話さなくて誰が話せ

思ひが通り、昨年十二  
月、市議会で国から土地を  
購入する議案が可決され



# 旧陸軍桶川飛行学校跡地 案内図

(土・日曜、祝日一般公開)



## 特攻機に同乗して

柳井政徳（元整備員 埼玉県北本市在住）

私は大正15年生まれで、昭和16年1月から20年5月初めまで、昭和12年に桶川市川田谷に開校した熊谷陸軍飛行学校桶川分教場に整備員として勤務していた。

桶川分教場は、熊谷にあった陸軍飛行学校の分校で、召集下士官や少年飛行兵、特別操縦見習士官などの操縦訓練をしていた。初心者用の通称「赤とんぼ」という複葉の飛行機が16、17機あり、数か月に一度、50～70人の学生が入学てきて、気象学、航空工学や基本操縦を学んでいた。生徒・学生、本部兵舎の事務職員以外に、飛行場には、飛行機の整備班、燃料担当の補給班、格納庫内の雜務を担当する庫内班などがあったが、整備班は、技術将校を筆頭に、30人ぐらいいたと思う。



初練、中練といわれる飛行機で、操縦の基本を教える学校であったが、時には高等練習機による高度な操縦を教えることもあった。学生は、ここを卒業すると、福岡の太力洗飛行学校や外地の飛行場で、実戦機の訓練に入った。

昭和20年ごろになると、桶川分教場は特攻隊の訓練基地も兼ねるようになり、私は特攻練習用の97式戦闘機や99式高練（高等練習機）など、実戦機に近い飛行機の整備担当となった。各地から特攻隊を編成した隊員が来て、特攻攻撃の訓練を行っていた。訓練は、今のホンダエアポートの滑走路から本田航空社屋に向かう途中の、堤防上に立っていた吹き流しをめがけて急降下し、また、急上昇していく繰り返しだった。

戦況がいよいよ険しくなってきた昭和20年4月5日、特攻隊員12人が知覧から出撃することになった。整備のため、私たちも99式高練に同乗するよう言い渡された。指名されたのは、整備担当の藤原曹長と整備員5人であった。隊長の訓示、別れの酒のあと、12機のうちの6機の後部座席に乗った。特攻隊が出発することは秘密のはずであったが、うわさを聞きつけて周りの堤防の上には、見送りの人たちが来ていた。荒川の上流に沿い、北に向けて飛び立った。眼下には、冬枯れの薄茶色の地面の中に、黒く蛇行する荒川が見え、太郎右衛門橋の上では、おじいさんらしき人が大きく日の丸を振り、ほかにも数人が手を振っているのが見えた。旋回して戻り、飛行場の上を超低空で飛んで見送りの人たちに左右の翼を振って別れの挨拶をしたのち、12機は西に向けて飛んで行った。戦争に行って死ぬのは当然と思っていた当時、私はどんなことを思ったか、今思い出すことはできない。途中、<sup>かがみがはら</sup>客務原飛行場に一泊し、下関に近い小月飛行場に向かった。

私は、京都出身の山本少尉の飛行機に同乗したが、京都の町に入ったとき、大きな煙突だったので風呂屋だと思うが、2階の物干し台の上で家族らしい人たちが大きく日の丸を振っていた。飛行機は、驚くほどの超低空飛行で煙突の周りを2、3回まわり、翼を大きく振って別れの挨拶をした。学

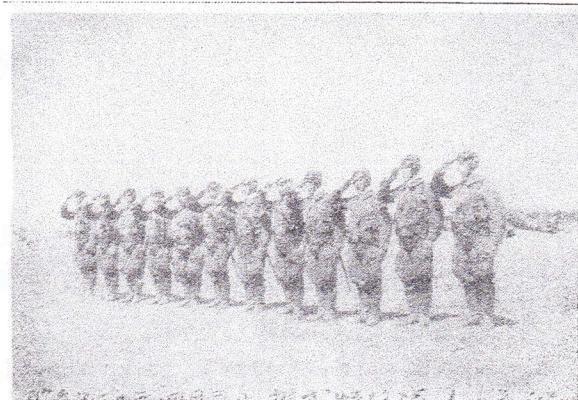


桶川出発の2日前、後進育成のため隊員からはずされた拝司少尉に、12名が残して行った色紙。日の丸部分は赤。(提供 拝司トヨ子氏)

徒出陣で、学生からいきなり特別操縦見習士官第1期生として入隊して将校となつた22歳の青年が、故郷の空をどういう思いで飛んだのか、胸中を察するに余りある。

小月飛行場に着いた私たちは、翌日朝、試運転を終わって飛行機を隊員に引き渡した。アクセルを吹かした飛行機の爆音の中、山本少尉は、車輪止めをはずし終えた私を操縦席に呼んだ。「柳井、世話になつたな。整備班に帰つたら、みんなによろしく伝えてくれ」。私たちは列車で帰つてきたが、隊員たちは鹿児島県の知覧基地に向かい、記録によると、4月16日、第79振武隊として沖縄の海に散つたということである。

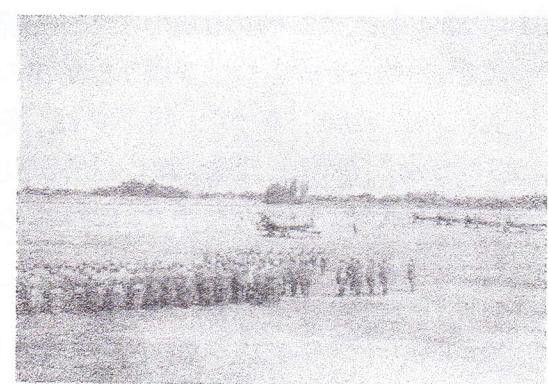
桶川から飛び立ち知覧から出撃した12人の寄せ書きが、今も知覧の記念館に残されている。桶川から特攻隊が出たのは、私が記憶しているのは1回だけで、その後あったとは聞いていない。



昭20.4.5 正午、知覧に向けて出発した第79振武特別攻撃隊（多田計之少尉撮影）



＜左＞ 第79振武特別攻撃隊（昭20.4.5 桶川）  
後列左から 郷田、池田、清水、田中、川島、難波  
前列左から 二村、山本、山田隊長、高橋、佐藤、上野



出発の朝、新潟から駆けつけた父母と。  
(池田保男少尉) 右は高見澤少尉

#### ＜解説＞

特攻隊の待機部隊は、2、3週間ずつ各地の飛行場で秘密裡に訓練していたといわれ、桶川には4隊が来ていたようである。昭和20年3月27日、知覧に向けて出発する12名の特攻隊員が決定された。4月5日正午、出撃基地である鹿児島県知覧飛行場に向け出発。使用機は「九九式高等練習機」で、陸軍で初めての練習機による特攻といわれる。12機のうち6機に整備兵又は整備員が同乗し、途中、岐阜県の各務原飛行場、山口県小月飛行場(現下関市)に立ち寄つて各1泊した。各務原飛行場では、山田隊長が母親との面会を約したが、行き違いで会えず、滋賀県上空、京都上空では清水隊員、山本隊員がそれぞれ親族と最後の別れをした。一行は小月飛行場で整備員と別れ、4月7日午前、知覧着。4月16日出撃。うち1機(池田機)は爆弾が落下したため一旦帰還し、同22日再出撃。1機(高橋機)は敵機の攻撃に遭い、小島に不時着。知覧に帰つたが、飛行機がなく再出撃の機会がなかった。

(NPO法人 旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会) H24.10

# DVD発売のごあんない

ドキュメンタリー映画 2012年作品

## 熊谷陸軍飛行学校 桶川分教場



戦時中、陸軍の飛行学校や飛行場は全国に100カ所以上  
あったといわれる。

ここで学び、卒業した飛行学生の数は約1600名という。  
建設から70年以上を経て、静かにたたずむ戦争の遺跡。  
今もなお、戦争の記憶を我々に語り続けている。



定価:2,000円(税込)  
※ジャケットはイメージです

本編52分 片面・1層 カラー MPEG-2 複製不可  
NTSC 4:3 スクエアーダイナム DVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。  
 VHSビデオ対応プレーヤーで再生して下さい。

このディスクプログラムは、一般視聴者に限り販売が承認されており  
全ての権利は著作権者に留保されています。  
無断でこれを複製、改変、放送、有線放送、インターネットによる  
公衆配信、公開上映することは法律で禁止されています。

監督:長尾栄治 製作:吉丸昌昭

企画製作:株式会社ユニモト 製作協力:旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会/戦場体験放映保存の会

# 「熊谷陸軍飛行学校 桶川分教場」DVD 購入申込書

お問い合わせ先: 株式会社ユニモト DVD販売係

TEL 03-3314-7021

お申し込み日 年 月 日

	定価 [税込]	購入数	金額
「熊谷陸軍飛行学校 桶川分教場」 DVDビデオ(送料込)	¥2,000		

※必要事項をご記入の上、下記FAX番号まで送信してください。

※ 上記DVDビデオは個人観賞用に限らせていただきます。法人・団体等のライブラリー用(上映会用途等)をご要望の場合、別途ご連絡ください。  
※ お支払いは商品に同封する郵便払込用紙にて、郵便局でお振り込みください。

フリガナ  
ご氏名

法人名・団体名称(個人購入の場合は不要)

ご住所・連絡先(商品送付先) 〒

(建物名も明記してください)

TEL

FAX

メールアドレス

備考欄



FAX:03-3318-2723

発売元・販売元 株式会社ユニモト  
〒166-0011 東京都杉並区梅里1-8-7 187ビル2F  
TEL 03-3314-7021(営業時間 平日10:00~19:00)

## 【個人情報の取り扱いについて】

お申し込みいただいたお客様の個人情報は、ご注文された当社の商品をお届けする上で必要な業務、新商品の案内など、お客様に有益かつ必要と思われる情報の提供、業務遂行上で必要となる当社からの問い合わせ、確認、および制作物に関する意見収集、各種お問い合わせ対応のみに利用します。ご本人の同意なく目的以外での利用及び第三者への提供はいたしません。株式会社ユニモト 個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトをご参照ください。[URL] <http://unimoto.jp/privacy/index.html>